

発信日:令和元年7月12日

～江戸向島の至宝を地元で初公開～  
**黄檗（OBAKU）**  
- 牛頭山弘福寺の絵画と墨蹟 -

向島弘福寺に伝わる江戸時代の貴重な文化財を初めて公開！

7月20日(土)から、すみだ郷土文化資料館(向島2-3-5)で企画展「黄檗 - 牛頭山弘福寺の絵画と墨蹟 - 」を開催します。これは、江戸時代に開かれた弘福寺(向島5-3-2)に伝わる絵画や墨蹟27点を初めて公開するもので、江戸時代初期に大変注目された黄檗文化の一端を垣間見ることができる貴重な展示です。

7月20日(土)から9月23日(祝)まで全作品を3期に分けて入れ替えてご紹介いたします。

ぜひ、貴紙面・番組等にてご紹介いただければ幸いです。よろしく願いいたします。

#### 展示構成

第一期：喜多元規の黄檗絵画と五百羅漢図(全8点)

喜多元規は黄檗絵画を代表する人物で、いんげんりゅうき 隠元隆琦、もくあんしやうとう 木庵性瑠、てつぎゅうどうき 鐵牛道機を描いた三幅は、顔の特徴が陰影強く描かれ、観る者を見据えるようです。

弘福寺ともゆかりがある画僧・ちやうけいげんみやう 兆溪元明(?～1734)の五百羅漢図(6幅のうち三作を展示します)は表装寸法が280cmに及ぶ大作で、細部まで色鮮やかな迫力ある画面に圧倒されます。

絹本着色隠元隆琦像



第二期：狩野安信の隠元像と木庵性瑠の名筆(全12点 うち1点は資料館所蔵)

幕府御用絵師の狩野安信(1613～1685)が描いた隠元隆琦の肖像は、長崎奉行の求めに応じて隠元禅師が作った賛が隠元の自筆で書かれています。

黄檗三筆の一人、木庵禅師の墨戯は、禅僧の生活に身近な鉢や笠などを優しい墨線で描き、賛を付けた味わいある三幅です。

絹本墨画鉢盂図



第三期：五百羅漢図三作と弘福寺護持者の作品

(全8点)

弘福寺とゆかりある兆溪の五百羅漢図(残りの三作)は、羅漢の不思議な力や日常生活を鮮やかな色彩で描いた迫力ある画面を楽しめます。

喜多元規の稲葉正則像は、幕府老中を務めた威容を伝え、元規作品で希少な制作年代を記す作品です。

左：絹本着色五百羅漢図(争龍)

右：絹本着色五百羅漢図(経蔵)



企画展に関連した刊行物を販売

本企画展の展示作品を収録した刊行物「牛頭山弘福寺の絵画・墨蹟」を2,500円(税込)で販売します(限定300部)。すみだ郷土文化資料館や区役所1階情報コーナーなどで購入していただくことができます。

開催概要

会期

第一期：7月20日(土)～7月28日(日)

第二期：7月31日(水)～9月1日(日) 休館日あり

第三期：9月7日(土)～9月23日(月) 会期ごとに全作品を入れ替えます

会場

すみだ郷土文化資料館(向島2-3-5)3階企画展示室

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)

入館料 100円

展示関連イベント

ギャラリートーク

日付：7月21日(日)午後2時～、3時～

講演会「弘福寺の歴史」

日付：9月15日(日)午後2時～4時

講師：川本恭子(墨田区文化財保護指導員)

会場：すみだ郷土文化資料館5階研修室

詳細は添付チラシをご覧ください。

本件に関するお問合せ及び取材・撮影のお申込み先  
地域教育支援課 文化財担当 5608-6310